リサウンド・ライブ

耳かけ型補聴器　LV
取扱説明書

- ☐ LV70-DVIR
- ☐ LV770-DVIR
- ☐ LV570-DVIR
- ☐ LV71-DVI
- ☐ LV771-DVI
- ☐ LV571-DVI
- ☐ LV571-DI
- ☐ LV81-DVI
- ☐ LV781-DVI
- ☐ LV581-DVI

ReSound
rediscover hearing

製造販売元
ジーエヌリサウンドジャパン株式会社
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-6-3
MMパークビル8F
0120-921-310（TEL）
0120-636-392（FAX）

認証番号　221AGBZX00250000

KTG0352 LV 02 1111E-11113K

はじめに

管理医療機器
デジタル式補聴器

耳かけ型補聴器　LV

この度はジーエヌリサウンド補聴器をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書では当補聴器の操作手順、機能、故障が疑われる場合の原因と対策などについて説明しています。
お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
また、この取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。

この取扱説明書では、各器種を以下のように呼びます。

この取扱説明書での呼び方	リサウンド・ライブ9	リサウンド・ライブ7	リサウンド・ライブ5
70(RIE)タイプ	LV70-DVIR	LV770-DVIR	LV570-DVIR
71タイプ	LV71-DVI	LV771-DVI	LV571-DVI LV571-DI
81タイプ	LV81-DVI	LV781-DVI	LV581-DVI

安全上のご注意（必ずお守りください）

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容を良く理解してから本文をお読みください。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が損害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。

■お守りいただく内容の種類を、次の表示で区分し説明しています。

⃠禁止	この表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

重　　傷：失明・ケガ・火傷・骨折・中毒など、後遺症が残ったり治療のための入院や長期の通院を必要とするものを示します。

軽　　傷：重傷に該当しないケガ・火傷などを示します。

物的損傷：家屋・家財ならびに人身以外の家畜やペットに関わる拡大損害を示します。

使 用 者：本機器の使用者を想定しています。ただし、使用者は購入者だけでなく、その家族・友人など第三者・購入者から製品を譲渡された者などを含みます。

目 次

1. 製品概要 …… 1
1-1. 各部の名称と役割 …… 1
1-2. 付属品の確認 …… 5
2. 基本的な使い方 …… 9
2-1. 電源の入れ方／切り方 …… 9
2-2. 電池の取り出し方／入れ方 …… 11
2-3. 電池寿命お知らせ機能 …… 13
2-4. 補聴器の装着 …… 13
2-5. ボリュームコントロールの使い方 …… 19
2-6. プログラム選択ボタンの使い方 …… 20
2-7. 電話での使用 …… 24
2-8. テレコイルについて …… 25
2-9. 外部入力について（オプション） …… 25
3. 日頃のお手入れ …… 29
4. 使用上の注意 …… 41
5. 電池使用上の注意 …… 45
6. 故障かな?と思ったら …… 47
7. 性能表 …… 49
8. 音響諸特性 …… 51
9. アフターサービスについて …… 61

1 製品概要

1-1. 各部の名称と役割

●70(RIE)タイプ

① **音の入口**
音声を聞き取るためのマイクです。

② **音の出口**
本体内部で増幅された音声信号を外耳道に導きます。

③ **電池ケース**
電池を収納します。(詳細は11～12ページをご覧ください)

④ **プログラム選択ボタン**
プログラムを切り替える(選択する)際に使用します。(詳細は20～22ページをご覧ください)

⑤ **ボリュームコントロール**
音量の調整を行います。(詳細は19ページをご覧ください)

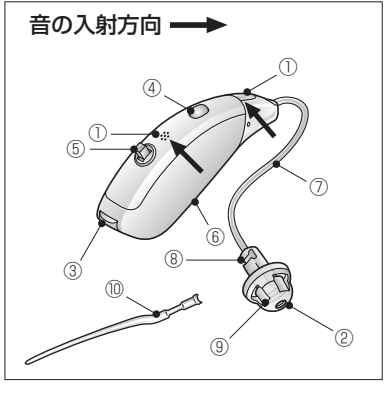
⑥ **外部入力端子**
オーディオシューを接続する端子です。

⑦ **レシーバーチューブ**
増幅した音声をワイヤーを通して外耳道に送り届けます。

⑧ **レシーバー**
音を出力する部分です。

⑨ **耳せん**
レシーバーを外耳道内に固定するための耳せんです。

⑩ **スポーツロック**
耳せんと補聴器が正しく耳に装着されるように固定します。



●71、81タイプ

① 音の入口
音声を聞き取るためのマイクです。

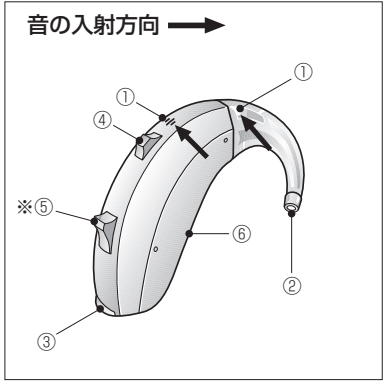
② 音の出口
本体内部で増幅された音声信号を外耳道に導きます。

③ 電池ケース
電池を収納します。(詳細は11～12ページをご覧ください)

④ プログラム選択ボタン
プログラムを切り替える(選択する)際に使用します。(詳細は20～22ページをご覧ください)

⑤ ボリュームコントロール
音量の調整を行います。(詳細は19ページをご覧ください)
※LV571-DIを除く

⑥ 外部入力端子
オーディオシューを接続する端子です。



1-2. 付属品の確認

この補聴器には、補聴器を保管したり持ち歩いたりするための携帯用ケースの他に、以下のものが付属されています。補聴器をご使用になる前に、必ず確認してください。万一不足するもの、また破損しているものなどがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
（□にチェックマークをして、確認されることをおすすめします）

① □ 電　池　【1個】
【70(RIE)タイプ】PR41/312
【71、81タイプ】PR48/13

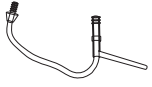
② □ 耳せん
【70(RIE)タイプ】ドーム5、7、10　 　【各1個】

【70(RIE)、71タイプ】チューリップドーム　 　【1個】

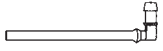
【81タイプ】S·M　 　【各1個】

③ □ チューブ
【70(RIE)タイプ】レシーバーチューブ　【1本】
(0L/R、1L/R、2L/R、3L/R)のうち指定のサイズ

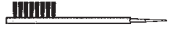
【71タイプ】ミニチューブ　【1本】



【81タイプ】ジョイントチューブ　【1本】

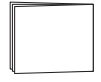


④ □ 耳あか掃除ブラシ　【1本】



⑤ □ 乾燥ケース　【1個】

⑥ □ クリーニングクロス　【1枚】



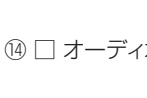
⑦ □ 左右識別チップ　【左右各2本】
※青が左用、赤が右用になります。

⑧ □ クリーニングピン　【1本】
【71タイプ】

⑨ □ イヤフック　【各1個】
スタンダード･スモール･ベビー
【71、81タイプ】

⑩ □ スポーツロック　【1本】
【70(RIE)タイプ】

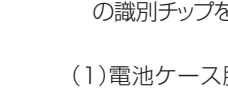
⑪ □ 耳あかガードHF-3　【1ケース】
【70(RIE)タイプ】
（右用　赤
左用　青）



※両耳でご購入された場合、電池は2個、耳あかガードは2ケースとなります。

オプション

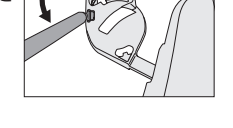
⑫ □ イヤモールド
【71、81タイプ】



【70(RIE)タイプ】
プチモールド

⑬ □ オーディオシュー

⑭ □ オーディオコード

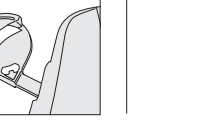


■左右識別チップの付け方

補聴器が右耳用か左耳用か識別するため、左右識別チップが付属しています。
右耳用の補聴器には赤、左耳用の補聴器には青の識別チップを付けてご使用ください。

(1)電池ケース脇の空洞部に識別マーカーをしっかりと奥まで差込みます。

(2)左右識別チップを横に倒して折り切ります。



完成

電池ケース内側から見ると、この部分に赤(又は青)が見えます。

図は71、81タイプの場合

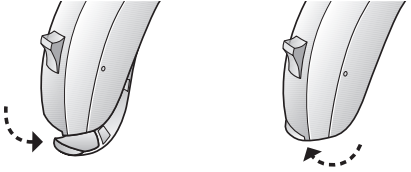
※器種によって取付位置などは異なります。ご不明な点はお買い求めの販売店にお問い合わせください。

2 基本的な使い方

2-1. 電源の入れ方／切り方

電源の入／切は電池ケースで行います。電池ケースを完全に閉じると電源が入り、開けると電源が切れます。

※電源投入時は「プログラム1」が自動的に選択されます。
※電池の消耗を防ぐために電源の切り忘れにご注意ください。



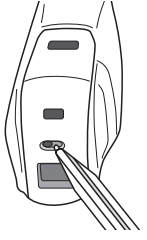
開けると電源オフ　　閉めると電源オン

図は71、81タイプ

■チャイルドロック

乳幼児が電池ケースを開けて電池を飲み込んでしまうことのないように、チャイルドロックが付いています。このロックを閉めることにより、電池ケースがむやみに開いてしまうのを防ぎます。ロックの開閉位置については、右図をご参照ください。
ロックをする際には、先端の尖ったもの（ペンの先、ピンセットなど）を使用してください。

※チャイルドロックは左右識別チップを付けることで機能します。
　左右識別チップの付け方は8ページをご参照ください。



閉める ⟷ 開ける

■スマートスタート機能

補聴器本体を耳に装用する際に不快なハウリング(ピーピー音)が発生する事があります。本製品にはこのハウリングの発生を防ぐ為に「スマートスタート機能」がついています。この機能をオンにすると、電源を入れてから10秒間補聴器から音が出ず、代わりに1秒間隔で電子音(ピッ、ピッ、ピッ…)が鳴り、機能が働いていることをお知らせします。なお、この機能のオン/オフは、お買い求めの販売店で設定することができます。

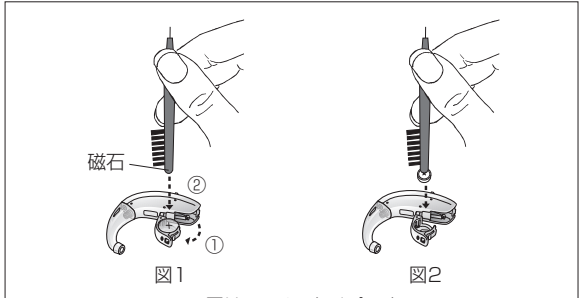
2-2. 電池の取り出し方／入れ方

■電池の取り出し方

電池ケースのふたをそっと開き、耳あか掃除ブラシの磁石の部分で古い電池をつけ取り出してください。
（図1参照）

■電池の入れ方

（1）耳あか掃除ブラシの磁石に電池の平らな面（+マークのついている面）をつけ、そっと持ち上げてください。
（2）電池を補聴器の電池ケースにまっすぐ入れてください。（図2参照）
電池がしっかり入ったら、耳あか掃除ブラシを横にスライドさせ、電池から引き離してください。



※図は71、81タイプです。

⚠注意

（1）電池がうまく入らない場合は、無理に入れようとせず電池の向きと種類を確認してください。
（2）補聴器をしばらく装用されない場合は、電池を補聴器から外してください。

2-3. 電池寿命お知らせ機能

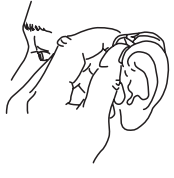
電池残量が少なくなってくると、交換を知らせる電子音（ピッ、ピッ、ピッ、ピッ）が電池が無くなるまで5分おきに繰り返し鳴ります。その後、補聴器の電源が自動的に切れます。電池交換を知らせる電子音が鳴りましたら、必ず新しい電池と交換してください。電池切れに備えて、予備の電池を常に携行することをおすすめします。この機能はお買い求めの販売店で調整することができます。

2-4. 補聴器の装着

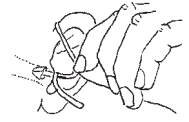
■補聴器の着け方「耳せんをご使用の場合（70（RIE）、71タイプ）」

（1）電池ケースを完全に閉じて電源を入れてください。

（2）右図のように補聴器を耳の上にかけます。



（3）耳せんを耳あなの中に、しっかり入れてください。



（4）ミニチューブをご使用の場合は、スポーツロックを耳たぶ上側のくぼんだところに這わせてください。

■補聴器の外し方「耳せんをご使用の場合（70（RIE）、71タイプ）」

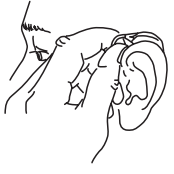
親指と人差し指でチューブをつまみ、真横に引き出してください。

※チューブは無理にねじ曲げないようにしてください。

■補聴器の着け方「プチモールドをご使用の場合（70（RIE）タイプ）」

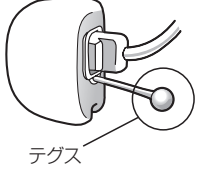
（1）電池ケースを完全に閉じて電源を入れてください。

（2）右図のように補聴器を耳の上にかけます。



（3）テグスをつまみ、プチモールドを耳あなの中にしっかり入れてください。

※絶対にチューブをつままないでください。



■補聴器の外し方「プチモールドをご使用の場合（70（RIE）タイプ）」

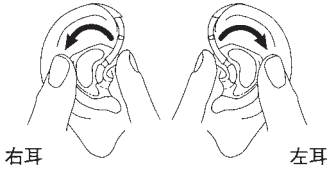
テグスをつまみ、真横に引き出してください。

※絶対にチューブをつままないでください。

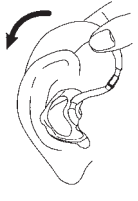
■補聴器の着け方「イヤモールドをご使用の場合（71、81タイプ）」

（1）必要な場合は電源を入れてください。補聴器から「ピーピー」というハウリング音がすることがありますが、イヤモールドが完全に耳に装着されると止まります。（装用後に電源を入れても構いません）

(2)右図のようにイヤモールドを指先で軽く持ち、矢印の方向（前から後ろ）へ回しながら、ゆっくりと耳の中へ押し込んでいきます。



(3)右図のように補聴器を耳の後ろに乗せます。



■補聴器の外し方「イヤモールドをご使用の場合（71、81タイプ）」

補聴器を着ける時とは反対の方向に回しながら引き出し、補聴器とイヤモールドをつないでいるチューブをにぎって、静かに耳から外してください。

⚠注意

(1)スマートスタート機能が働いている場合、電池ケースを閉じた後「ピッ、ピッ、ピッ…」というお知らせ音が鳴り、10秒後に電源が入ります。
(2)チューブは無理にねじ曲げないようにしてください。

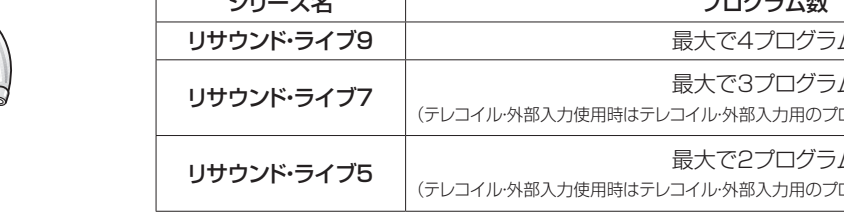
2-5. ボリュームコントロールの使い方

■音量調整

リサウンド･ライブ(LV571-DIを除く)は、必要に応じてお客様自身が音量を手動で調整することができます。
(1)ボリュームコントロールを上方向に押すと、音が大きくなります。
(2)ボリュームコントロールを下方向に押すと、音が小さくなります。

※ボリュームコントロールを押すと「ピッピッ」というお知らせ音が鳴ります。上限あるいは下限に達すると「ポー」という音に変わります。
※電源を切ると、変更した音量は元に戻ります。

●図は71、81タイプ



2-6. プログラム選択ボタンの使い方

■プログラム選択ボタン

プログラム選択ボタンは、プログラムを切り替えるときに使用します。お客様一人ひとりのきこえや使用環境に合わせて、最大で4つのプログラムを設定することができます。詳細についてはお買い求めの販売店にご相談ください。
プログラム数については、下記の表をご参照ください。

シリーズ名	プログラム数
リサウンド･ライブ9	最大で4プログラム
リサウンド･ライブ7	最大で3プログラム (テレコイル･外部入力使用時はテレコイル･外部入力用のプログラムを含めて最大で4プログラム)
リサウンド･ライブ5	最大で2プログラム (テレコイル･外部入力使用時はテレコイル･外部入力用のプログラムを含めて最大で4プログラム)

電源が入った状態で、プログラム選択ボタンを押すだけで簡単にプログラムを切り替えることができます。プログラムを切り替える度に「ピッ」という『お知らせ音』が鳴りますので、『お知らせ音』の回数によって、どのプログラムが選択されたか分かります。

お知らせ音の鳴る回数
□プログラム 1：1回「ピッ」
□プログラム 2：2回「ピッ、ピッ」
□プログラム 3：3回「ピッ、ピッ、ピッ」
□プログラム 4：4回「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ」

2プログラムの場合は、1→2、2→1の順番で切り替わります。3プログラムの場合は、1→2、2→3、3→1の順番で切り替わります。4プログラムの場合は、1→2、2→3、3→4、4→1の順番で切り替わります。

※電源投入時、スタンバイモードからの復帰時はプログラム1が自動選択されます。（詳細は、23ページをご覧ください。）

■プログラム設定

お買い求めの販売店でお客様の補聴器に設定されている環境プログラムの内容を下記の表に記入します。

どのプログラムをいつ、どのように選択すればよいのか判断するためにお使いください。

プログラム	内容･使用環境

■消音機能（スタンバイモード）

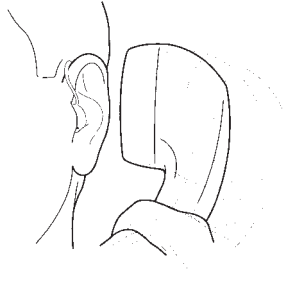
補聴器を装着する際に発生するハウリングがわずらわしい場合は、一時的に消音することができます。電源が入っている状態でプログラム選択ボタンを長押しすると「ピッ」という『お知らせ音』が5回鳴り、その後一時的に消音状態になります。装着後、再度プログラム選択ボタンを押すと、『お知らせ音』（1回）と共に元の状態に戻りプログラム1が選択されます。

⚠注意

消音状態時:この状態は、電源が切れているわけではありません。お使いにならない場合は、必ず電源を切ってください。（電源の切り方は9ページをご覧ください）

2-7. 電話での使用

「耳かけ型補聴器 LV」は、装用したままでも電話を使用することができます。下図のように受話器を補聴器の一番上のマイク部分に近づけてください。そのとき、マイクには直接あてないよう注意してください。もし、電話中にハウリング（ピーピー音）が起こった場合は、受話器を補聴器から遠ざけてください。



2-8. テレコイルについて

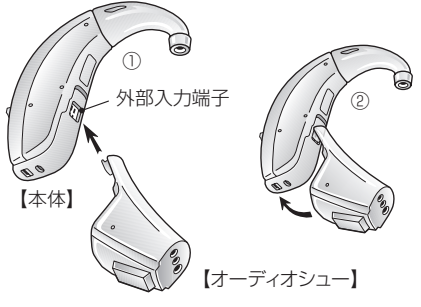
「耳かけ型補聴器 LV」には、テレコイルが内蔵されています。テレコイルは、教室、公共施設、家庭内等のループシステムのある場所で、他の音に阻害されることなく必要な音を聴取するときに使用します。
また、強い誘導信号を出力するコイルを内蔵した受話器であれば、電話でお使いいただくことができます。
テレコイルの詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

2-9. 外部入力について（オプション）

外部入力により、テレビ、ラジオ等からの音をより良い音質で直接聞くことが可能です。オーディオシューを補聴器に取り付け、ケーブルもしくはワイヤレスFMシステムで音源に接続すると自動的に外部入力に切り替わります。

■オーディオシューの取り付け方

①オーディオシューの先端を外部入力端子（下図参照）にしっかりと当ててください。
②カチッと音がするまで、オーディオシューを補聴器に接続してください。

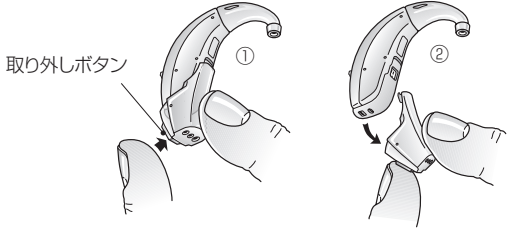


図は71、81タイプ

■**オーディオシューの取り外し方**

①オーディオシューの表面の取り外しボタン（下図参照）を押してください。

②オーディオシューをそっと外してください。

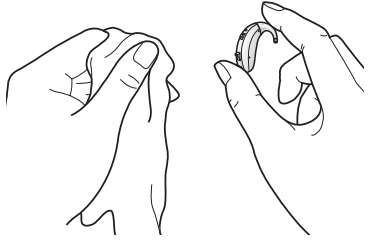


※外部入力に接続する外部機器は、JIS規格か電気用品安全法、又は同等の安全性を備えるものをご使用ください。

（例）電気用品安全法 (PS E) マーク表示されたものなど

3 日頃のお手入れ

補聴器はいつも清潔にしておいてください。ご使用後は、付属の耳あか掃除ブラシで耳あかを取り除き、クリーニングクロス又はティッシュペーパーなどで油分や湿気を拭き取ってください。取りきれない汚れなどは、お買い求めの販売店で取り除いてもらってください。そのままお使いになると、補聴器の機能に影響をあたえるばかりでなく、故障の原因になります。



●70(RIE)タイプ

■レシーバーチューブ、耳せん、プチモールドの掃除

やわらかい布を使ってレシーバーチューブと耳せんの外側を拭きます。レシーバーチューブを掃除する時は水などは使わないでください。

HF-3耳あかガードの交換方法については32ページをご参照ください。

■耳せんの交換

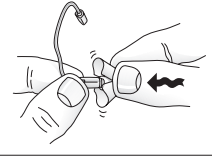
耳せんは3ヶ月に1度程度は交換が必要です。耳せんはお買い上げの販売店で交換されることをお勧め致します。
(ご自分で交換する場合は販売店に一度ご相談頂いた上で、次のページの要領で交換してください)

※プチモールドのお手入れに耳あか掃除ブラシは使わないでください。

●耳せんの取り付け方

[ドーム]
ドームはレシーバーチューブの先端のレシーバーにゆっくりと押し付けて装着します。

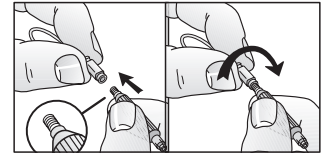
[チューリップドーム]
チューリップドームは2つの羽がありますので大きい羽の方が外側かつ下側にくるようにしてください。



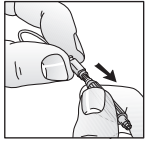
■耳あかガード

70(RIE)タイプには耳あか進入を防ぐためのフィルター「耳あかガードHF-3」が取り付けてあります。
このフィルターはレシーバーの先端にあり、赤色もしくは青色をしています。(赤色は右耳用、青色は左耳用)
この耳あかガードHF-3の交換はお買い求めの販売店にて行ってください。
(ご自分で交換する場合は販売店に一度ご相談頂いた上で下記の要領で交換してください。)

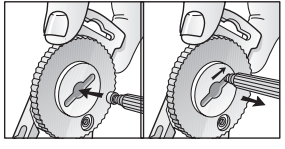
(1)付属の治具をレシーバーの先端に時計まわりに差込みます。



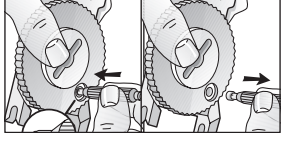
(2)そのまま耳あかガードごと抜き取ります。



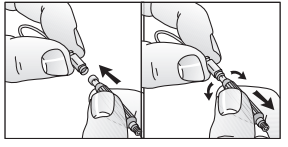
(3)(2)で抜き取った耳あかガードは図のように、中心の穴に入れ、外向きにずらして治具から外します。



(4)新しい耳あかガードを窓に合わせた後、治具の反対側の先端を新しい耳あかガードに差込み、上に引き上げます。



(5)レシーバーチューブの先端に押し込み、そのまま治具を抜き取ります。

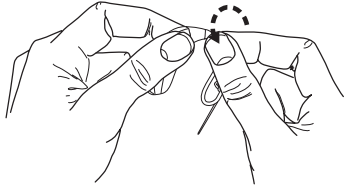


●71タイプ(オープン)

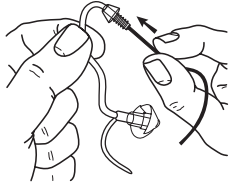
■ミニチューブと耳せんの掃除

(1)耳せんはやわらかい布を使って、汚れや耳あかを取り除いてください。うまく取り除けない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

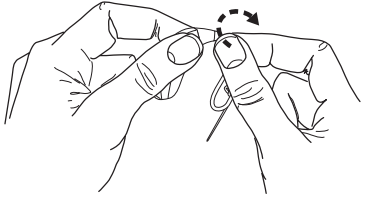
(2)右図のようにミニチューブを持ち、手前に回して本体から外してください。



(3)やわらかい布で外側を拭き、クリーニングピンを使って中にたまったゴミなどを押し出します。クリーニングピンはミニチューブの本体に接続する側から入れ、ミニチューブを通して耳せんの外に抜けるまで押してください。



(4)(2)とは逆の方向にミニチューブを回して、本体に接続してください。



禁止

(1)耳せんは強く拭かないでください。
(2)絶対にご自分でミニチューブの形を変えないでください。

⚠注意

(1)ミニチューブと耳せんは硬化し割れやすくなるので3～4ヵ月に1回程度、交換するようにしてください。

(2)耳せんがミニチューブにしっかり挿入されていないとはずれてしまうことがありますので、必ず奥までしっかり挿入してください。

●71、81タイプ(クローズ)

■チューブと耳せんまたはイヤモールドの掃除

耳あか掃除ブラシややわらかい布を使って、汚れや耳あかを取り除いてください。取り除けない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

※チューブ内に水滴が残る危険があるため、洗わないでください。水滴が残ってしまうと音声の伝わりが妨げられたり、補聴器の電子部品に悪影響を与える可能性があります。

※絶対にご自分でイヤモールドの形を変えないでください。

※イヤモールドの装用感が不快であったり、支障があるようでしたら、お買い求めの販売店にご相談ください。

■耳あかについて

ほんの少しの耳あかでも、補聴器の機能に影響をあたえます。補聴器を装用されている方は、時々耳鼻科を受診し、耳の中をきれいにしてもらってください。また、定期的に耳の検診を受けることをおすすめします。

■補聴器の保管について

補聴器はいつも乾燥した状態にしておいてください。補聴器は汗や湿気に弱いため、装用後は必ず、乾燥ケースに一晩入れておいてください。この時、必ず電池を抜いてください。

禁止

（1）補聴器を水や他の液体に浸すことは、故障の原因となりますので、絶対に避けてください。
（2）シンナー、ベンジン、ベンゾールまたは濡れた布で拭くことは避けてください。

注意

（1）補聴器を乾燥させる目的でヘアドライヤーや電子レンジ等を使わないでください。また、直射日光に
　　長時間さらさないでください。外部変形及び外部変色、内部損傷や焼失の原因となります。
（2）乾燥剤を焼いたり、電子レンジで温めたりなどして、再利用しないでください。乾燥剤の色が変わったら
　　（青色→ピンク）新しいものと交換してください。
（3）乱暴な扱い方は補聴器の故障の原因となります。床など固い面に落とさないでください。

4 使用上の注意

補聴器はきこえを助ける医療機器です。ここに示した警告や注意事項は補聴器を正しく使っていただき、装用者ご本人や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。以下の項目をお読みになり、取扱いにご注意ください。

⚠警告

- **お子様が触れないようご注意ください。**
  飲み込むと窒息の危険を伴う小さなパーツを含んでいるので、幼児の手に触れさせないようお願いします。

⚠注意

- **衝撃・熱を避けてください。**
  補聴器に強い衝撃をあたえたり、落としたりしないでください。また、直射日光の強いところや炎天下の車内、火のそば、ストーブの上面など、高温となる場所での使用・放置はしないでください。
- **補聴器はいつも清潔にしておいてください。**
  就寝時には必ず補聴器を外してお手入れをしてください。
- **適切な音量でご使用ください。**
  必要以上に大きな音を長時間聴取すると、聴力低下を招く場合があります。
- **補聴器はお使いになる方のきこえ具合に合うように調整する必要があります。**
  この補聴器は、販売店でお使いになる方のきこえ具合に合わせて調整してもらってから装用してください。
- **補聴器を装用しても良く聞き取れない音もあります。**
  小さすぎる音、遠くの音や周囲の雑音が大きい環境下での音声は十分に聞き取れないこともあります。このような場合は音源に近づくか、またはお買い求めの販売店にご相談ください。

・**ハウリング（ピーピー音）にご注意ください。**
耳せんがきちんと収まっていない場合や、抜けかけて隙間ができた場合などには特にハウリングが起こりやすく、装用者に不快感を与えるばかりでなく、周囲の人にも迷惑をかけることになります。ご自分でハウリング音を確認できない場合は、ご家族など周囲の人にもきいてもらい、補聴器を正しく入れ直してください。

・**補聴器を装用して炎症が生じたら…**
この補聴器の皮膚に接する部分には、かぶれや炎症等を起こしにくい材料を使用していますが、装用者の体質によっては、まれにかぶれや湿疹等を生じることがあります。このようなときは、ただちに補聴器の装用を中止し、医師へご相談ください。

・**低周波治療器・電磁（IH）調理器などによって補聴器に雑音が発生することがあります。**

・**ご不用になった補聴器及びその付属品は、お住まいの市町村の指示に従って廃棄してください。**

禁止

・**補聴器を水に濡らさないでください。**
補聴器を装用したまま泳いだり、お風呂に入ったり、洗顔しないでください。

・**補聴器を分解したり、ご自分で修理・改造等を絶対にしないでください。**

・**補聴器を乾燥させる目的でヘアドライヤーや電子レンジ等を絶対に使わないでください。**

・**補聴器を他人に貸さないでください。**
補聴器は使用者本人以外絶対ご使用にならないでください。他の人がこの補聴器を装用しても音量や音質が合わずきこえにくいばかりでなく、耳を痛める場合があります。

・**病院内の検査機器にご注意ください。**
MRIやCTスキャナーなどの検査は補聴器に損傷をあたえる可能性がありますので、同種の検査中は補聴器の装用をおやめください。

5 電池使用上の注意

⚠警告

・ショートさせたり、ネックレスなどの金属製のものと一緒に携帯･保管しないでください。

・電池は乳幼児の手の届かないところに保管してください。

・電池を誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師へご相談ください。また、電池を錠剤と間違わないように注意し、薬を飲むときは必ず確認するようにしてください。

・電池内部の液が漏れて、目に入ったり、皮膚や衣服に付着したときは、失明やケガなどの恐れがありますので、きれいな水で洗い流し、ただちに医師へご相談ください。

⚠注意

・＋、－を逆向きに入れないでください。

・必ず指定されたタイプの電池を使用してください。

・空気電池は充電式ではないので、充電すると液漏れ破損の恐れがあります。絶対に充電しないでください。

・補聴器を長時間使わないときは、電池を本体から外してください。使い切った電池を補聴器に入れたままにすると、液漏れを起こす可能性があり、故障の原因になります。

・直射日光･高温･高湿の場所を避けて保管してください。

・乾燥ケース内で補聴器を乾燥させる場合は、必ず電池を抜いてください。

・石油ヒーターやガスヒーターなどの暖房器具から発生する二酸化炭素により電解液が劣化することがあります。電池寿命が短くなるので、火気を用いる暖房器具を使用する場合は換気を十分に行ってください。

・使用済みの電池は、お住まいの市町村の指示に従って廃棄してください。

6 故障かな?と思ったら

症　状	原　因	対　策
音がきこえない／音の大きさが不十分	電源が入っていない。	電池ケースを閉じる。
	電池が消耗している。	電池を新しい物に交換する。
	音の出口が詰まっている。	音の出口を掃除して詰まりをとる。
	チューブが詰まっている。	チューブを新しい物と交換する／掃除する。
	耳せんとチューブが正しく装着されていない。	注意して装着し直す。
	レシーバーやレシーバーチューブが破損している。(70(RIE)タイプの場合)	販売店に相談する。
	耳あかガードが詰まっている。(70(RIE)タイプの場合)	販売店に相談する。
	スタンバイモードに入っている。	プログラム選択ボタンを押してスタンバイモードを解除する。

※対策をしても解決しない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

症　状	原　因	対　策
音がきこえない／音の大きさが不十分	装用者の耳に過度の耳あかが詰まっている。	医師に相談する。
	設定音量が小さい。	可能であれば音量を上げる、または販売店に相談する。
ハウリング(ピーピー音)がする	チューブがゆるんでいる。	チューブを交換する。
	耳せんとチューブが正しく耳に入っていない。	注意して入れ直す。
	補聴器の設定が合っていない。	販売店に相談する。
	耳せんの大きさが外耳道に対して合っていない。	販売店に相談する。
	装用者の耳に過度の耳あかが詰まっている。	医師に相談する。
音が不明瞭、音が歪む	電池が切れかかっている。	電池を新しい物に交換する。
	プログラムの設定が合っていない。	販売店に相談する。

7 性能表

性能表	IEC 60118-0 イヤシミュレータ	70(RIE)タイプ (クローズ)	70(RIE)タイプ (オープン)
規準周波数		1600 Hz	1600 Hz
規準利得(入力音圧60dB SPL)	1600Hz	30 dB	31 dB
最大音響利得 (入力音圧50dB SPL)	ピーク	52 dB	52 dB
	1600Hz	42 dB	43 dB
90dB最大出力音圧レベル	ピーク	119dB SPL	118 dB SPL
	1600Hz	108 dB SPL	108 dB SPL
全高調波歪	800Hz	1.3%	1.2%
	1600Hz	1.0%	1.0%
コイル感度(1mA/m)	1600Hz	72 dB SPL	73 dB SPL
等価入力雑音レベル		27 dB SPL	27 dB SPL
周波数範囲 (DIN45605)		110-7050 Hz	130-6930 Hz
電池電流		0.90 mA	0.91 mA
電池寿命	PR41/312(1.4V)	180時間	180時間
誘導コイル入力の出力音圧レベルが最大感度となる方向		垂直	垂直

※数値は参考値です。

性能表	IEC 60118-0 イヤシミュレータ	71タイプ (クローズ)	71タイプ (オープン)
規準周波数		1600 Hz	1600 Hz
規準利得(入力音圧60dB SPL)	1600Hz	45 dB	42 dB
最大音響利得 (入力音圧50dB SPL)	ピーク	63 dB	58 dB
	1600Hz	55 dB	52 dB
90dB最大出力音圧レベル	ピーク	133 dB SPL	133 dB SPL
	1600Hz	131 dB SPL	127 dB SPL
全高調波歪	800Hz	0.9%	0.2%
	1600Hz	0.5%	0.9%
コイル感度(1mA/m)	1600Hz	86 dB SPL	83 dB SPL
等価入力雑音レベル		28 dB SPL	26 dB SPL
周波数範囲 (DIN45605)		100-7070 Hz	100-7090 Hz
電池電流		0.90 mA	0.90 mA
電池寿命	PR48/13(1.4V)	320時間	320時間
誘導コイル入力の出力音圧レベルが最大感度となる方向		垂直	垂直

※数値は参考値です。

性能表	IEC 60118-0 イヤシミュレータ	81タイプ
規準周波数		1600 Hz
規準利得(入力音圧60dB SPL)	1600Hz	53 dB
最大音響利得 (入力音圧50dB SPL)	ピーク	72 dB
	1600Hz	64 dB
90dB最大出力音圧レベル	ピーク	140 dB SPL
	1600Hz	135 dB SPL
全高調波歪	800Hz	0.5%
	1600Hz	0.7%
コイル感度(1mA/m)	1600Hz	93 dB SPL
等価入力雑音レベル		29 dB SPL
周波数範囲 (DIN45605)		100-6220 Hz
電池電流		1.09 mA
電池寿命	PR48/13(1.4V)	265時間
誘導コイル入力の出力音圧レベルが最大感度となる方向		垂直

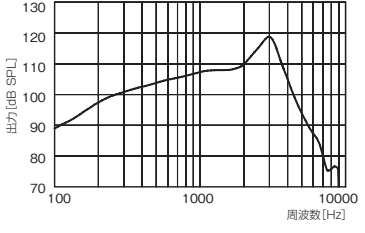
※数値は参考値です。

8 音響諸特性

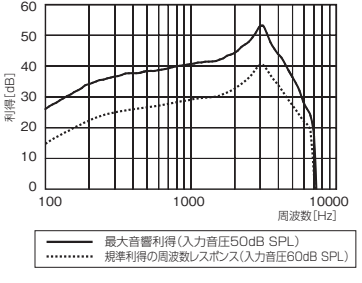
イヤシミュレータ 測定規格:IEC60118-0

●70(RIE)タイプ(クローズ)

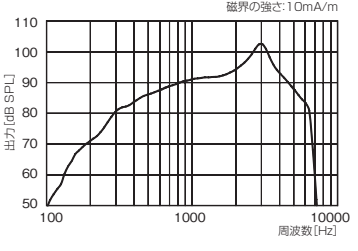
90dB 最大出力音圧レベルの周波数レスポンス



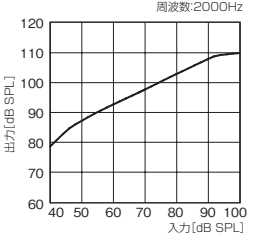
最大音響利得及び規準周波数レスポンス



誘導コイル入力の周波数レスポンス



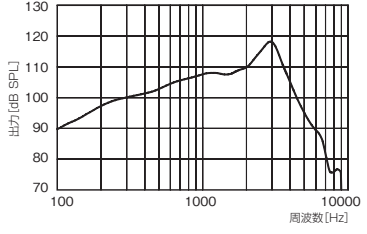
入力／出力レスポンス



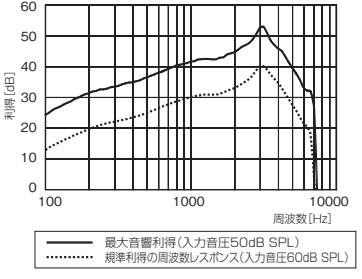
イヤシミュレータ 測定規格:IEC60118-0

●70(RIE)タイプ(オープン)

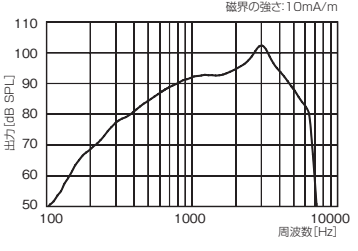
90dB 最大出力音圧レベルの周波数レスポンス



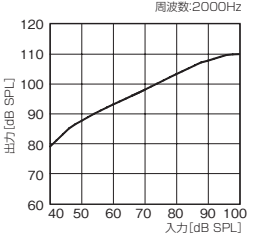
最大音響利得及び規準周波数レスポンス



誘導コイル入力の周波数レスポンス



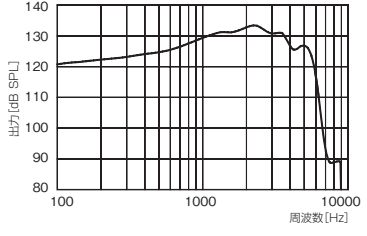
入力/出力レスポンス



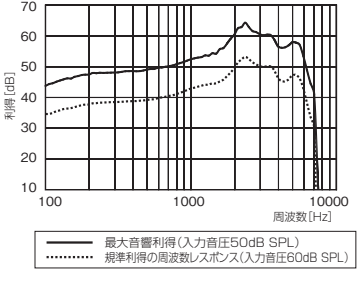
イヤシミュレータ 測定規格:IEC60118-0

●71タイプ(クローズ)

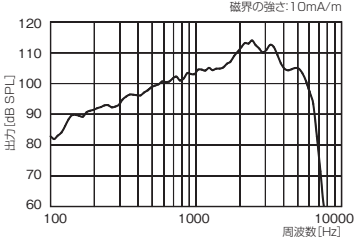
90dB 最大出力音圧レベルの周波数レスポンス



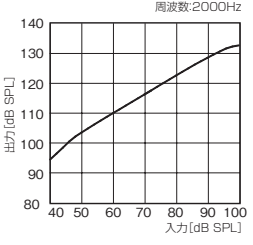
最大音響利得及び規準周波数レスポンス



誘導コイル入力の周波数レスポンス



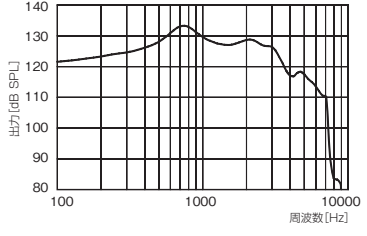
入力／出力レスポンス



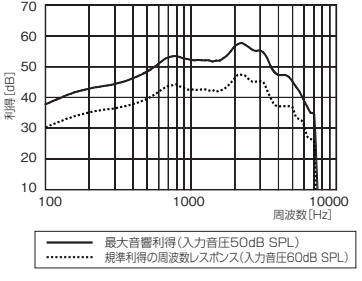
イヤシミュレータ 測定規格:IEC60118-0

●71タイプ(オープン)

90dB 最大出力音圧レベルの周波数レスポンス

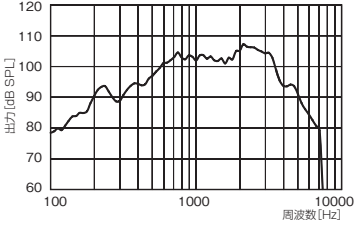


最大音響利得及び規準周波数レスポンス



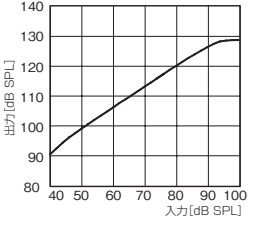
誘導コイル入力の周波数レスポンス

磁界の強さ:10mA/m



入力／出力レスポンス

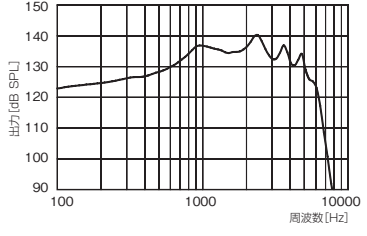
周波数:2000Hz



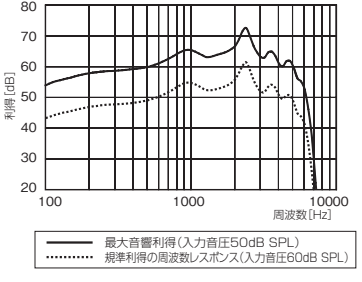
イヤシミュレータ 測定規格:IEC60118-0

●81タイプ

90dB 最大出力音圧レベルの周波数レスポンス

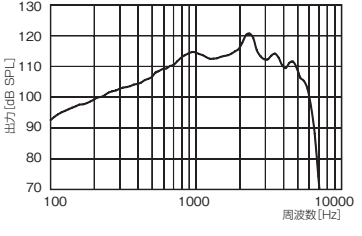


最大音響利得及び規準周波数レスポンス



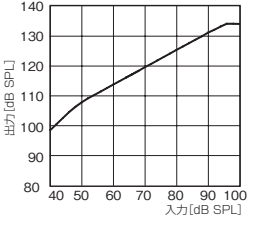
誘導コイル入力の周波数レスポンス

磁界の強さ:10mA/m



入力／出力レスポンス

周波数:2000Hz



9 アフターサービスについて

■保証内容

●プレミアム保証

（リサウンド･ライブ9のみ）

紛失･破損保証

お買い上げ日から2年間に限り、紛失またはユーザー様の過失による損傷の場合も、最初の1回に限り無償にて新品交換、修理対応を行います。

※但し紛失保証時には保証書と共に紛失届が必要となります。

●2年間無償保証+ほっとシステム

（全器種共通）

お買い上げ日から2年間無償修理いたします。その後、1回の修理につき3年目は20,000円、4年目は40,000円を上限とし、これを超える修理費用は請求いたしません。

※自然故障の場合のみ適用します。

■保証書（別添付）

お買い上げ日、販売店名などの記入を必ずお確かめになり、大切に保管してください。保証適用時には、保証書が必要となります。

■修理について

・保証期間中

保証書を添えてお買い求めの販売店へお持ちください。保証書の規定に従って、修理いたします。保証書の提示がない場合は有料となります。

・保証期間後

お買い求めの販売店もしくは弊社にご相談ください。修理により使用可能な場合は、ご希望により有料で修理いたします。

■お問い合わせ先

修理･お取扱い･お手入れ･付属品などのご不明な点は、お買い求めの販売店もしくは弊社のカスタマーサービス(0120-921-310)までお問い合わせください。

■仕様について

改良のため仕様は予告なく変更される場合があります。